

あなたのためのクリスマス

ルカ 2:1~7

今年、皆さんはどのようなクリスマスをお迎えでしょうか？毎年迎えるクリスマスですが私自身は一年一年違った恵みを経験させています。今年は「神が人となられた」いわゆる「受肉」のことについて考えさせられます。クリスマスは御子イエス・キリストの誕生を祝う時です。確かにイエス・キリストに限らず、人がこの世に生を受け、誕生すること自体、これは神の祝福であり、喜ばしいことであることに違いありません。クリスマスを迎えるこの時期になりますと御子イエスの誕生、および誕生を預言した聖書の箇所が読まれます。そのあと聖書は一気に、福音宣教とみわざに励まれるイエス様、続けて十字架と復活、昇天へと話は進みます。

十字架と復活によって救いが完成したわけですが、それは当たり前ですがキリストが誕生したことによって成りたつことです。イエス・キリストは生まれながらにして十字架への道を歩むためにこの世に来られたとも言えます。それはそうなのですが私としては御子イエスの誕生の前提となる「神が人となる」ということにあまり光が当てられていないように感じるのです。どうして全てを治めておられる神が人となって私たちのところに来なければならなかったのでしょうか？神が人となるということを聖書は「あなたのために神であるお方が人となられた」また「神であるお方があなたのところまであなたのために降りてきてくださった」と教えています。つまり神が人となられたということとあなたとは関係があるのだと教えています。それは子どもの遊具であるシーソーをイメージすると分かりやすいと思います。シーソーとは分かりますよね。一方が上になったらもう一方は下になります。一方が下になったら相手は上になるわけです。お互いの位置は関係し合っているとも言えます。

さてイエスは栄光の絶頂から、暗く罪深き世に、低いどん底の地位へと下られました。それは私たちを低い地位からご自分の栄光へと引き上げるためにほかなりません。パウロはそのことをコリント第二 8:9 でこう言いました。「主は富んでおられたのに、あなたがたのために貧しくなられました。それは、あなたがたが、キリストの貧しさによって富む者となるためです。」そのような対比を聖書の中から見ておきましょう。

1) ルカ 2:11 で御使いは羊飼いたちにこう言いました。「きょうダビデの町で、あなたがたのために、救い主がお生まれになりました。この方こそ主キリストです。」次のヨハネ 1:12 ではイエスを信じている人たちのものとなる新しい誕生についてヨハネは「この方を受け入れた人々、すなわち、その名を信じた人々には、神の子どもとされる特権をお与えになった。」と語っています。ここで言わんとしていることはイエスが人間としての誕生を経験なさったのは、彼を信じる者が天に属する誕生にあずかるためであったということです。

2) ルカ 2:7 ではマリヤが生まれたばかりのキリストを「布にくるんで、飼葉おけに寝かせた。宿屋には彼らのいる場所がなかったからである。」と書かれています。一方ヨハネ 14:2 では「わたしの父の家には、住まいがたくさんあります。もしなかったら、あなたがたに言うておいたでしょう。あなたがたのために、わたしは場所を備えに行くのです。」と記されています。このことからイエスが飼葉おけをご自分の場所とされたのは、私たちが天上の大邸宅に住むようになるためだったと分かります。

3) ペリピ 2:6,7 には「キリストは神の御姿である方なのに、神のあり方を捨てられないとは考えず、ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。」とあります。ご自分を無にするとは（ご自分の神としての栄光を脱ぎ捨てる）ということです。（仕える者の姿をとり）とは自由の無い、服従させられた状態で生きるということです。一方ペテロ第一 5:4 には「大牧者が現れるときに、あなたがたは、しばむことのない栄光の冠を受けるのです。」イエスは私たちが栄光を受けるようになるため、ご自分の栄光を捨てられたのです。

4) マタイ 8:20 には、主が地上で働いておられたころにはあまりにも貧しかったために「狐には穴があり、空の鳥には巣があるが、人の子には枕する所也没有ありません。」と言われたと書いてあります。まさに正真正銘のホームレス状態であったというのです。一方、私たちはコリント第二 8:9 「キリストの貧しさによって富む者」とされたのです。

他にもありますが以上の聖句を重ねてみると大きな模様が浮き上がってきます。イエスが人としての誕生の屈辱を忍ばれたのは、私たちに霊的な新しい誕生を与えるためでした。イエスが家畜小屋に住居となされたのは、私たちが邸宅をもらい受けるためでした。私たちに自由を与えるためにご自身は服従の道を選ばれました。イエスは私たちに栄光を与えるために、ご自分の栄光を捨てられました。イエスが貧しくなられたのは、私たちが富むためです。私たちが天において喜びが起こるために、大歓迎を受けるためにイエスは徹底して悲しみの道をたどってくださいました。神は私たちに利益を与え、祝福してくださるために、自ら犠牲の価を払って立場を逆転してくださったのです。

では神が私たちのためにそこまでしてくださったのならクリスチャンである私たちはどのようにして応答すべきでしょうか？

1). 信仰に富む者となる・・・イエス様がそんなに厳しいところを通られたのだから私も少々のことでは文句を言わないようにしましょう。生活も出来るだけ我慢するようにしましょう。私も我慢しているから、あなたも我慢しなさいなどと神が言っておられるのでしょうか？そうではありません。主イエスがどん底を歩んで下さったのは私たちを高くするためです。それはどのような状況の中にあってもあなたは与えられている信仰によってその状況を神の恵みとして受け止めることができる。だから神に感謝して生きることが出来るようになる。それが信仰に富む者となるということです。

2). 神に愛されていることを信じ受け入れる・・・私たちが神の栄光を得、高くされるために主イエスは低くなってくださいました。それが分かる時に私と主イエスとの間につながり、絆があるということになります。あのペテロはイエスが弟子たちの足を洗われた際、最初、非常に遠慮して「決して私の足をお洗いにならないでください」ヨハネ 13:8 と言いました。それに対してイエスは「もしわたしが洗わなければ、あなたはわたしと何の関係もありません。」と言われました。遠慮したり気兼ねするのは謙遜でも何でもありません。これを受けたら後々気を使ってしまうというのは根本的には人間不信と思われれます。そのまま誰かを愛そう、赦そうとしてもその力はわずかなものです。先ず神に愛されていることを自覚したいと思います。それが進められるなら今度は神を愛するという積極的な信仰へと変えられる可能性があります。

3). 福音を伝え、証しする者として生きる・・・悔い改め、救われる魂が起こされる時に天においては大きな喜びが湧きあがります。つまり救われる魂が起こされることを神様は非常に喜ばれるということです。そのような人が起こされるために私に何が出来るのでしょうか？それも自発的に起こされることを主は願っておられます。そのために教会があります。クリスマスの喜びをすでに知った私たちがまたクリスマスの喜びを知る人が起こされるように一つとなり主に仕える場として教会があるのです。キリストは私のために何をしてくださるのか？キリストは本当に私のことを愛して下さっているのだろうか？と言った幼い子供のような信仰者というステージを超えて、私はキリストを愛しています。キリストのために私は何が出来るのか？どうぞ私を用いてくださいと主の前に出るものでありたいと思います。